

総会報告

第 25 回通常総会報告

日 時：平成 19 年 3 月 9 日(金) 13 時 30 分～14 時 30 分
 会 場：本郷瀬川ビル(東京都文京区本郷 2 35 10)
 出席社員数：93 名(内委任状 65 名)
 (社員数総数：101, 総会成立の定数 51 名以上)

議 案：

- (1) 平成 18 年度事業報告 [第 1 号議案]
- (2) 平成 18 年度収支決算書報告 [第 2 号議案]
- (3) 平成 19 年度事業計画 [第 3 号議案]
- (4) 平成 19 年度収支予算 [第 4 号議案]
- (5) 個人会員除名処分の件 [第 5 号議案]
- (6) 平成 19 年度役員の内 [第 6 号議案]
- (7) 平成 19 年度評議員の内 [第 7 号議案]

議 事：

午後 1 時 30 分, 定款第 24 号に基づき内山隆会長が議長となり, 出席者が定款 26 条に定める定足数に達しているとの旨報告の上, 第 25 回通常総会の開会を宣した。

次いで, 以下の各議案について提案および詳細な説明があり, 逐次審議を行った結果, いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

【第 1 号議案】

平成 18 年度 事業 報 告
 (自平成 18 年 1 月 1 日 至平成 18 年 12 月 31 日)

I 庶 務

1. 会員状況

	平成 18 年 12 月 31 日現在	平成 17 年 12 月 31 日現在	増減
名誉会員	6 名	6 名	0 名
正 会 員	2,973 名	2,984 名	11 名減
学生会員	1,081 名	1,044 名	37 名増
賛助会員	72 団体 (101 口)	71 団体 (101 口)	1 団体増 (0 口)

2. 第 24 回総会

会 期：平成 18 年 3 月 10 日(金)

会 場：本郷瀬川ビル

出席社員数：99 名(うち委任状提出：70 名)

(正社員総数：103 名, 総会成立の定数 52 名以上)

議 題：平成 17 年度の仕事・決算案, 平成 18 年度の仕事計画・予算案, 個人会員除名処分, 理事・監事の選任の件, 評議員の選任の件

上記について審議し, 議決した。

3. シンポジウム, 講習会等の主催, 共催, 協賛, 後援(定款第 5 条 1 号, 5 号)

- (1) シンポジウム, 講演会, 講習会等 9 件を主催した。
- (2) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト等 11 件を共催した。
- (3) シンポジウム, 国際会議, 講演会, 講習会, 展示会, 研究会等 96 件を協賛した。
- (4) シンポジウム, 国際会議, 講習会, コンテスト, 展示会等 27 件を後援・協力した。

4. 委員会

下記の委員会を開催した。

- (1) 会誌編集委員会 (委員長：金子 真)

- (2) 欧文誌委員会 (委員長：鈴木高宏)
- (3) 事業計画委員会 (委員長：倉林大輔)
- (4) 国際委員会 (委員長：佐藤知正)
- (5) 研究協議会 (委員長：和田充雄)
- (6) 出版事業委員会 (委員長：國井康晴)
- (7) 電子化運営委員会 (委員長：佐藤知正)
- (8) アドバイザリーボード (委員長：内山 隆)
- (9) 将来ビジョン策定委員会 (委員長：内山 隆)
- (10) 事務局体制検討委員会 (委員長：佐藤知正)
- (11) 第 24 回学術講演会実行委員会 (委員長：則次俊郎)
- (12) 第 20 回論文賞選考委員会 (委員長：和田充雄)
- (13) 第 21 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：和田充雄)
- (14) 第 22 回研究奨励賞選考委員会 (委員長：佐藤知正)
- (15) 第 11 回実用化技術賞選考委員会 (委員長：佐藤知正)
- (16) ファナック FA ロボット財団論文賞選考委員会 (委員長：和田充雄)

5. 役員および評議員の選出

平成 18 年度の理事・監事ならびに評議員を選出した。

6. 評議員会, 理事会

- (1) 平成 18 年 9 月 14 日(木)に第 24 回評議員会を開催し, 会務報告と評議を行った。
- (2) 平成 18 年度中に 12 回理事会を開催し, 会務の審議と処理を行った。

7. フェロー, 名誉会員の選任

8 名のフェローを選任した。

8. 電子化運営委員会

- (1) 和文, 英文 HP の構成を統一的に変更し, 情報発信の迅速化への対応を強化した。
- (2) 学会内の電子化の一環として, 和文査読システムの運用を開始した。
- (3) 学会運営の効率化をさらに進めるためにデータベース機能の検討を進めた。

9. 事務局

- (1) 事務局体制委員会を定期的で開催し, 中長期的な事務局体制について検討した。
- (2) 事務局改革推進委員会を定期的で開催して, 事務局内の運営の円滑化を図った。

II 事 業(定款第 5 条 1 号)

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第 24 回学術講演会

期 日：2006 年 9 月 14 日(木)～16 日(土)

会 場：岡山大学津島キャンパス

組 織：実行委員長：則次俊郎(岡山大学)
 プログラム委員長：鈴木康一(岡山大学)

発表件数：606 件

14 バラレルセッション

一般セッション：84 セッション

オーガナイズドセッション：8 セッション

展開セッション：9 セッション

合計 101 セッション

特別講演会：講師 浅田春比古氏

テーマ「Organic Robotics and Broadcast Feedback Control」

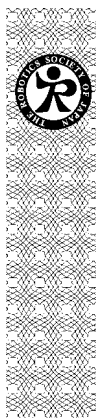
参加登録者数：1,090 名

(正会員 595 名, 学生会員 414 名, 非会員 45 名, 学生非会員 30 名, 招待者 6 名)

(2) 文科省科研費補助金・研究成果公開発表事業

「人間支援型ロボットシンポジウム」

期 日：2006 年 9 月 16 日(土)



会 場：岡山大学津島キャンパス
内 容：講演会
参加者数：約 250 名

会 場：ホテル桜（佐賀県）
実行委員長：木口量夫（佐賀大学）
プログラム委員長：山本元司（九州大学）
発表件数：94 件
参加者数：168 名

2. ロボット工学セミナー

(1) 第 34 回シンポジウム「ヒューマノイドインタラクシオンテクノロジー」

期 日：2006 年 3 月 2 日(木)
講 師：澤田 務(ソニー), 坂上義秋(本田技術研究所),
尾形哲也(京都大学), 小林哲則(早稲田大学)
オーガナイザ：澤田 務(ソニー)
参加者：47 名(会員：36 名, 会員外：3 名, 学生：8 名)

(2) 第 35 回シンポジウム「脳型情報処理入門」

期 日：2006 年 4 月 25 日(火)
講 師：岡田真人(東京大学), 大津展之(東京大学),
深井朋樹(理研), 大須理英子(ATR), 酒井邦
嘉(東京大学)

オーガナイザ：山根 克(東京大学)

参加者：59 名(会員：33 名, 会員外：8 名, 学生：18 名)

(3) 第 64 回講習会「ロボットの作り方 2006」

期 日：2006 年 5 月 24 日(水), 25 日(木)
講 師：福島 E. 文彦(東京工業大学), 坪内孝司(筑波
大学), 林原靖男(千葉工業大学), 飯島純一
(明星大学), 滝田好宏(防衛大), 網野 梓
(ROBO ONE 登録選手), 米 真一(マイクロ
マウス委員会会員), 吉田和夫(慶応義塾大学)

オーガナイザ：先川原正浩(千葉工業大学), 林原靖男(千葉
工業大学)

参加者：76 名(会員：26 名, 会員外：13 名, 学生：24 名)

(4) 第 36 回シンポジウム「聴くロボット～ロボットののための音響・
音声処理～」

期 日：2006 年 7 月 27 日(木)
講 師：奥乃 博(京都大学), 釜石 力(日本電子シス
テムテクノロジー), 松尾浩義(日東紡音響エンジ
ニアリング), 浅野 太(産総研), 李 晃伸
(名工大), 徳永健伸(東工大)

オーガナイザ：中臺一博(ホンダ・リサーチ・インスティテ
ュート・ジャパン)

参加者：69 名(会員：22 名, 会員外：18 名, 学生：29
名)

(5) 第 37 回シンポジウム「浮かぶロボット～軽航空機ロボティクス
～」

期 日：2006 年 10 月 30 日(月)
講 師：天沼春樹(日本ツェッペリン協会会長), 渡邊裕
之(日本飛行船), 富田一正(AES), 恩田昌彦
(産業技術総合研究所), 後藤昇弘(九州大学),
深尾隆則(神戸大学), 川端邦明(理化学研究
所)

オーガナイザ：羽田靖史(理化学研究所)

参加者：21 名(会員：8 名, 会員外：7 名, 学生：6 名)

(6) 第 38 回シンポジウム「生活を支援するロボティクス」

期 日：2006 年 11 月 27 日(月)
講 師：土屋博史(経済産業省), 中内 靖(筑波大学),
野島久雄(成城大学), 山高大乗(シャープ),
小川秀樹(東芝), 小林昌市(松下電器産業),
相澤清晴(東京大学), 西田佳史(産業技術総合
研究所)

オーガナイザ：岡田祐子(日立製作所)

参加者：56 名(会員：36 名, 会員外：11 名, 学生：9 名)

3. 共催事業・協賛

国内共催事業：

(1) 第 11 回ロボティクスシンポジウム

期 日：2006 年 3 月 16 日(木), 17 日(金)

(2) ロボカップ・ジャパンオープン 2006

期 日：2006 年 5 月 4 日(木)～ 6 日(土)
会 場：西日本総合展示場(福岡県)

実行委員会会長：末吉興一(北九州市市長)
競技運営委員会委員長：松原 仁(はこだて未来大学)

(3) 第 18 回知能ロボットコンテスト・フェスティバル

期 日：2006 年 6 月 24 日(土), 25 日(日)
会 場：仙台市科学館(仙台市青葉区)

主 催：ロボット競技会実行委員会, メカトロで遊ぶ会
実行委員長：熊谷正朗(東北学院大学)

(4) 第 6 回レスキューロボットコンテスト

期 日：2006 年 7 月 9 日(日)(予選)
2006 年 8 月 5 日(土)～ 7 日(月)(決勝)

会 場：神戸サンボーホール(兵庫県)
主 催：ロボット×レスキュー 2006 実行委員会
実行委員長：升谷保博(大阪電気通信大学)

4. 出版事業

ロボット学会編集によるライブラリ(講習会テキスト, 教科書等)
の発行を検討した。

III 学 会 誌(定款第 5 条 2 号)

学会誌第 24 巻 1 号より 8 号を発行し, 会員に配布した。各号の特集
テーマは次の通りである。

第 24 巻 1 号	ロボットキット	145 頁
第 24 巻 2 号	愛・地球博のロボット	130 頁
第 24 巻 3 号	ロボットビジネスへの取り組み	151 頁
第 24 巻 4 号	スマートマテリアル/コンポジット	134 頁
第 24 巻 5 号	Women in Robotics	119 頁
第 24 巻 6 号	感性心理とロボティクス	91 頁
第 24 巻 7 号	実世界の性質を利用した知覚と制御	114 頁
第 24 巻 8 号	空中ロボティクス	96 頁

また, 平成 18 年度は, 査読プロセスのさらなる効率化・査読期間の
短縮化を図るべく, 電子化投稿・査読システムに移行し, これに伴い
寄稿および査読に関する規則の改定(照会後判定の削除等)を行った。

特集号企画に関しては, 編集委員による独創的・魅力的企画立案に
加え, 一般会員による企画(一般企画)を開始した。これに関しては
現在, 一件検討中であるが, ロボット関連プロジェクトの成果発表な
どに効果的に利用していただきたいと考えている。また, 論文投稿を
奨励するため学術講演会論文特集号を新たに企画した。

広告に関しては, 会誌広告で目標額以上の広告収入を達成した。ま
た, 本学会ホームページ上におけるバナー広告を開始した。

また, これまでに会誌に掲載した講座や, ロボコンマガジンに連載
している研究室紹介の書籍化・出版についても検討した。

会誌の年 10 号化, 12 号化のフィージビリティについても検討を行
った。

IV 欧 文 誌(定款第 5 条 2 号)

1. 欧文誌編集・発行

Vol. 20 を発行した。2006 年については 12 号に増号された。各号の
詳細は以下の通りである。

No. 1	06.1	発行済み	一般論文
No. 2	06.2	発行済み	一般論文
No. 3	06.3	発行済み	Haptic Display : Beyond Visual and Aural Interaction
No. 4	06.4	発行済み	一般論文
No. 5	06.5	発行済み	一般論文
No. 6	06.6	発行済み	一般論文
No. 7	06.7	発行済み	一般論文
No. 8	06.8	発行済み	一般論文

No. 9 06. 9 発行済み Section Focused (Kazerooni's papers)

No. 10 06. 10 発行済み Development and Learning

No. 11 06. 11 発行済み IROS 2005

No. 12 06. 12 発行済み 一般論文

2. 投稿および査読の状況

2006年における年間論文投稿総数は184件(一般論文・137件,特集号論文・47件)であり,2005年より3件減少した(参考:75(41)2001年) 75(51)2002年) 118(75)2003年) 158(110)2004年) 187(142)2005年) ()内は一般論文)。

2005年に比べると僅かに減少したが,2005年までに大幅に増加した水準を維持したと考えられる。また今年度においてはVol. 21における特集号企画を抑えるなど,論文投稿を増やすよりも,後述する掲載までの期間短縮に重点をおいて努力を行った結果と考えられる。

また,2006年投稿論文の投稿から採否決定までの期間は,平均約90日(約12.8週)と,昨年の約91.9日(約13.1週)よりわずかに早くなった(最短24日,最長243日)。

3. 掲載までの期間短縮

2005年における状況で採否決定までの期間については大幅な短縮を実現できたものの,一方で採否決定後,掲載までの期間については大幅に長期化している問題があった(2005年平均で採否決定から掲載まで337日)。そのため,2006年においては前年までの10号から12号化を実現した結果,採否決定から掲載まで246日(受付~掲載342日)と,ひとまず大幅に短縮することができた。

4. 企画/編集/発行作業

2006年より12号化にともない,電子購読を基本とした購読形態に移した。今年度においてはその過渡期にあったことから購読管理の体制が不十分であり,購読申込を行った会員への購読キーの配布などに問題があった。この点については,購読者,RSJ事務局および出版社との間における購読管理事務手続の再確認と検討,およびマニュアル化を行い,今後同様な問題がなくなるべく起きないような体制の整備を行った。

5. Brillとの新規契約の締結

2005年度における契約交渉において持越しとなっていた,RSJおよびBrill間のAdvanced Roboticsに関する契約書について,現状に即した形での新規契約書を作成し,締結を行った。弁護士による法務チェックを含む各条項についての詳細な検討と交渉の後,会長代理としての佐藤副会長を筆頭に出版社Brillへ直接赴き,契約の締結を行った。これにより,今後は基本的な了解事項を記した当該契約の下に,年度ごとに各巻の発行号数・ページ数,購読価格,編集料などを定める合意書を取り交わすことで契約更新を行えることとなった。

なお,2006年9月に取り交わした合意により,2007年に発行するVol. 21に関しては,年15号×各号あたり120ページ,総計年1,800ページ(Vol. 20:12×100=1,200ページ)となる一方,会員向け購読価格は年2,400円のままとなり,会員購読者に対しては質的な向上のみならず量的にも向上をもたらす一方,欧文誌事業における収支にも大きく改善を実現できた。

6. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI)社のCitation Indexの評価(インパクトファクタ)において,多くの有名論文誌と比較して8位と健闘している。これまでの投稿料無料と迅速な査読による質的・量的両面での向上により,また別表に示す国際的認知度の高さによる結果と考えている。さらに掲載までの期間の短縮化や積極的な特集号企画などにより,さらに価値を高めていきたい。また,東アジア地域へのより積極的な働きかけとして,IROS 2006の機会に,中韓関連学会へのARの会員向け購読価格による提供の合意が行われ,今後さらに東アジア地域に広く購読者を増やす努力を行っていきたい。

なお,同じくIROS 2006の機会にあわせて国際編集委員会を開催し,海外委員に今後の特集号の企画を依頼した。こうした編集における国際化の努力もさらに進めていく。

V 企 画

1. 研究調査活動(定款第5条3号)

前年度から継続して以下の調査・研究専門委員会活動を実施。

・人と機械のライフログコンテンツ研究専門委員会

(委員長:佐藤知正,2005.1発足)

平成18年度に以下の調査・研究専門委員会を設置。

・RT 学術技術融合調査研究委員会 (委員長:内山 隆,2006.9発足)

(本調査委員会の主導のもと,技術戦略ロードマップ ロボット分野(経産省)を補完するアカデミックロードマップの検討委員会を人工知能学会,日本人間工学会と連携して設置・推進中)

・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会 (委員長:橋本秀紀,2007.1発足)

・手の巧みさ研究専門委員会 (委員長:星野 聖,2007.1発足)

また,研究専門委員会を活性化させるための推進組織として研究専門委員会運営協議会を発足させた。

2. 規約等の制定・整備

・研究専門委員会,調査研究委員会規程等

(1) 会員へのサービス向上(発表機会の多様化・専門化への対応),
(2) 裾野の拡大(若手,学生,企業人の参加拡大・地域連携など),
(3) 新シーズ・新シーズの発掘(技術調査,プロジェクト提案など)を図るという主旨に基づき規程・基準の改訂を実施。

・研究奨励賞表彰規程等

若手研究者の育成を積極推進するため,研究奨励賞に関する規程,応募要項等の改訂を実施。

・表彰規程

表彰事業の効率化・質の向上を目指して,表彰委員会(論文賞,実用化技術賞,研究奨励賞,その他外部団体からの依頼対応)の常設化検討を実施し規程類の改訂を実施。

3. 表彰等(定款第5条4号)

2006年9月開催の第24回学術講演会において,以下の論文賞4件,実用化技術賞2件,研究奨励賞11件の贈賞を行った。また,ファンックFAロボット財団の論文賞に2件を推薦し,内1件が論文賞を受賞した。

【論文賞】

・高山俊男,広瀬茂男(東京工業大学)

「螺旋回転推進を行う三次元索状能動体の研究」

(日本ロボット学会誌 第22巻第5号, pp. 625-635)

・高木 健,小俣 透(東京工業大学)

「ロボットハンドのための負荷感応無段変速機」

(日本ロボット学会誌 第23巻第2号, pp. 238-244)

・國吉康夫,大村吉幸,寺田耕志(東京大学),長久保昌彦(産業技術総合研究所)

「等身大ヒューマノイドロボットによるダイナミック起き上がり行動の実現」

(日本ロボット学会誌 第23巻第6号, pp. 706-717)

・Hiroaki Kawamoto and Yoshiyuki Sankai (University of Tsukuba)

「Power assist method based on Phase Sequence and muscle force condition for HAL」

(Advanced Robotics, Vol. 19, No. 7, pp. 717-734)

【実用化技術賞】

・森 利宏,嶋地直広,日野政典,前田昌之,泉 博之(北陽電気(株)),木造 弘((有)キズクリ設計事務所),村田五雄,山下 誠(日本電産(株)),油田信一,川田浩彦(筑波大学)

「移動ロボット用小型軽量測域センサの開発」

・瀬田良孝,藤本光生,櫻木 一,竹内康記,福原一美(川崎重工業(株))

「フリクションスポット接合(Friction Spot Joining:FSJ)ロボットシステムの開発と実用化」

【研究奨励賞】

・大村吉幸(東京大学大学院 情報理工学系研究科 知能機械情報専攻)

「切り貼り触覚センサシステム」 (第23回学術講演会)

・尾形 勝(東京工業大学大学院 理工学系研究科 機械宇宙システム専攻)

「歩行機械の干渉駆動式2自由度能動足首機構」

(第10回ロボティクスシンポジウム)

・尾川順子(東京大学大学院 情報理工学系研究科 システム情報学専攻)



お 知 ら せ

- 「電気走性アクチュエーションにおけるゾウリムシの非ホロノミック性」 (第23回学術講演会)
- ・桂誠一郎(長岡技術科学大学 工学部 電気系)
「マルチラテラル制御による遠隔触覚情報の共有制御」
(第23回学術講演会)
- ・川原知洋(広島大学大学院 工学研究科 複雑システム工学専攻)
「胸腔鏡手術における腫瘍の位置推定法」 (第23回学術講演会)
- ・岸 宏亮((株)日立製作所 機械研究所/早稲田大学大学院 理工学研究科生命理工専攻)
「MRI環境下対応双腕手術支援マスタ・スレーブ型マニピュレータシステム」 (第10回ロボティクスシンポジウム)
- ・杉原知道(東京大学大学院 情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻)
「境界条件緩和による二脚ロボットのオンライン歩容計画法」
(第10回ロボティクスシンポジウム)
- ・杉本靖博(京都大学大学院 情報学研究科 システム科学専攻)
「ボアンカレマップ内に存在するフィールドバック構造に着目した受動的歩行の安定解析」 (第10回ロボティクスシンポジウム)
- ・中塚潤一(慶應義塾大学大学院 理工学研究科 総合デザイン工学専攻)
「底面形状を利用した回転体の変則運動生成」
(第10回ロボティクスシンポジウム)
- ・新山龍馬(東京大学大学院 学際情報学府 学際情報学専攻)
「筋駆動脚機構による跳躍・着地ロボットの開発」
(第23回学術講演会)
- ・山下 淳(静岡大学 工学部 機械工学科)
「バーチャルワイパー - 画像処理を用いた屋外環境での視野明瞭化 - 」
(第10回ロボティクスシンポジウム)

【ファナック FA ロボット財団論文賞】

- ・荒井裕彦(産業技術総合研究所)
「ロボットによるスピニング加工の研究 カフォードバック制御を用いたしごきスピニング」
(日本ロボット学会誌 第22巻第6号, pp. 798-805)

VI 国 際

1. 国際会議共催/協賛(定款第5条1号, 5号)
本会に関連する国際会議を共催(6件), 協賛(17件), 後援(1件)した。
主な共催会議:
 - (a) 第11回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム(AROB 11th '06)
期日: 2006年1月23日~1月25日, 会場: 大分・日本
 - (b) 2006 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation (IEEE ICMA 2006)
期日: 2006年6月25日~6月28日, 会場: 洛陽・中国
 - (c) 15th IEEE International Workshop on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2006)
期日: 2006年9月6日~9月8日, 会場: Hatfield・イギリス
 - (d) 第23回国際建設ロボットシンポジウム(ISARC 2006)
期日: 2006年10月3日~10月5日, 会場: 東京・日本
 - (e) 2006 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2006)
期日: 2006年10月9日~10月14日, 会場: 北京・中国
 - (f) 2006 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS 2006)
期日: 2006年11月6日~11月8日, 会場: 愛知・日本
2. 海外ソサエティとの協定等
 - ・韓国ロボット学会(KRS)とのMOU締結
内容: 定期的共催会議の開催, セミナー・ワークショップ等の共同企画, 学生交流等に関して協力すること。
 - ・IROSにおけるFumio Harashima Awardに関するMOU締結。
IEEE IEソサエティ, SICEとRSJで上記アワード設立に関して合意した。

- ・IROS 2006における第1回アジアロボットサミットの開催。
IROS 2006(北京)において, 内山会長の呼びかけにより韓国, 中国, 日本のロボット学会会長・副会長に相当するメンバーが集まり, 各国のロボティクスに関する情報交換を行い, 下記の事項について合意した。
 - 継続的にアジアロボットサミットを開催すること。
 - 参加国の拡大。
 - アジアロボットサミット参加国のロボット学会会員は, 会員価格での相互の国際ジャーナルを購読できること。
 - “Network of Excellent Young Researchers”の設立。
 - 研究成果の共有。
 - 教科書等の翻訳を含む教育の推進協力。
- 3. Advanced Robotics 編集発行に関し Brill と新契約を締結
契約内容は欧文誌担当。
- 4. 英文ホームページの作成
新ホームページ公開にともない, 基盤英文ページを作成した。

【第2号議案】

平成18年度収支決算書報告

I 一般会計

平成18年度収支計算書

平成18年1月1日から平成18年12月31日まで

収入の部 (単位：円)

科 目	決 算 額
1. 基本財産運用収入	6,300
基本財産利息収入	6,300
2. 会費収入	42,940,000
正会員会費	29,988,000
学生会員会費	4,632,000
賛助会員会費	8,320,000
3. 入金収入	487,000
正会員入金	114,000
学生会員入金	373,000
4. 事業収入	34,565,612
会誌掲載料	14,008,575
欧文誌事業	1,200,000
学術講演会	15,383,000
講習会	2,474,000
公開シンポジウム	1,500,037
5. 諸収入	10,239,682
受取利息	3,611
広告料収入	7,161,620
資料頒布収入	2,568,765
雑収入	505,686
当期収入合計(A)	88,238,594
前期繰越収支差額	37,786,948
収入合計(B)	126,025,542

注1. 公開シンポジウム収入のうち1,500,000円は、文部科学省からの交付金である。

支出の部

(単位：円)

科 目	決 算 額
1. 事業費	44,096,449
会誌事業費	24,726,244
出版費	(16,218,912)
郵送費	(5,117,963)
編集費	(1,814,484)
電子化運営委員会費	(1,574,885)
欧文誌事業費	3,880,989
編集費	(429,789)
業務委託費	(2,760,000)
出版費	(691,200)
学術講演会開催費	11,613,485
講習会開催費	1,576,064
公開シンポジウム開催費	1,500,037
専門委員会費	125,000
研究専門委員会費	(100,000)
調査専門委員会費	(25,000)
広告制作費	420,747
表彰費	253,883
2. 管理費	44,801,698
総会費	831,829
給料手当	23,711,190
臨時雇賃金	46,200
退職金	3,395,000
福利厚生費	2,873,096
租税公課	1,120,400
旅費交通費	446,740
通信搬送費	556,908
備品消耗品費	554,472
議費	367,560
印刷製本費	1,043,542
光熱水料費	326,924
賃借料	6,709,134
災害保険料	6,000
諸謝金	1,279,255
会費収納費	710,791
雑費	822,657
3. 雑損失	1,039,400
雑損失	1,039,400
4. 特定預金支出	1,032,317
退職給与引当預金支出	1,032,317
5. 予備費	0
予備費	0
当期支出合計(C)	90,969,864
当期収支差額(A)-(C)	2,731,270
次期繰越収支差額(B)-(C)	35,055,678



お 知 ら せ

正味財産増減計算書

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
退職給与引当預金増加額	1,032,973	1,032,973
増加額合計		1,032,973
II 減少の部		
1. 資産減少額		
当期収支差額	2,731,270	2,731,270
2. 負債増加額		
退職給与引当金繰入額	1,032,973	1,032,973
減少額合計		3,764,243
当期正味財産減少額		2,731,270
前期繰越正味財産額		62,337,348
期末正味財産合計額		59,606,078

貸借対照表

平成 18 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(流動資産)	(63,526,347)	(流動負債)	(28,470,669)
現 金	436,721	未 払 金	622,100
普 通 預 金	40,209,494	前 受 会 費	26,751,790
振 替 貯 金	17,473,726	預 り 金	1,096,779
郵 便 貯 金	1,000,166	(固 定 負 債)	(7,474,734)
未 収 会 費	1,917,000	退職給与引当金	7,474,734
未 収 金	1,461,635		
前 払 金	1,010,805		
立 替 金	16,800		
(固定資産)	(32,025,134)	(正味財産)	(59,606,078)
(基本財産)	(21,000,000)	正 味 財 産	59,606,078
定 期 預 金	21,000,000	[うち基本金]	[21,000,000]
(有形固定資産)	(834,300)	[当期正味財産減少額]	[2,731,270]
什 器 備 品	834,300		
(その他の固定資産)	(10,190,834)		
退職給与引当預金	7,474,734		
電 話 加 入 権	153,100		
敷 金	63,000		
保 証 金	2,500,000		
資 産 合 計	95,551,481	負 債 ・ 正 味 財 産 合 計	95,551,481

II 刊行物発行基金

平成 18 年度収支計算書

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
刊行物発行基金繰入	13,512	受 取 利 息	13,512
合 計	13,512	合 計	13,512

正味財産増減計算書

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
増加の部		
1. 資産増加額		
刊行物発行基金繰入額	13,512	13,512
増加額合計		13,512
当期正味財産増加額		13,512
前期繰越正味財産額		44,954,523
期末正味財産合計額		44,968,035

貸借対照表

平成 18 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	(44,968,035)	(正味財産)	(44,968,035)
その他の固定資産	44,968,035	正 味 財 産	44,968,035
普通預金	24,947,969	[当期正味財産増加額]	[13,512]
定期預金	20,020,066		
合 計	44,968,035	合 計	44,968,035

お 知 ら せ

III 学術集会開催基金

平成 18 年度収支計算書

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学術集会開催基金繰入	8,359	受 取 利 息	8,359
合 計	8,359	合 計	8,359

正味財産増減計算書

平成 18 年 1 月 1 日から 平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 増加の部		
1. 資産増加額		
学術集会開催基金繰入額	8,359	8,359
増加額合計		8,359
当期正味財産増加額		8,359
前期繰越正味財産額		42,470,146
期末正味財産合計額		42,478,505

貸 借 対 照 表

平成 18 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	(42,478,505)	(正味財産)	(42,478,505)
その他の固定資産	42,478,505	正 味 財 産	42,478,505
普通預金	19,397,466	[当期正味財産増加額]	[8,359]
定期預金	23,081,039		
合 計	42,478,505	合 計	42,478,505

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 18 年度収支計算書

平成 18 年 1 月 1 日から 平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
表彰費	255,775	受 取 利 息	1,348
雑誌費	546,858	雑 収 入	138,650
		国際会議および共催会議開催基金取崩収入	662,635
合 計	802,633	合 計	802,633

正味財産増減計算書

平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

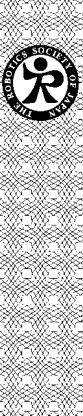
科 目	金 額	
I 増加の部		
増加額合計		0
I 減少の部		
1. 資産減少額		
国際会議および共催会議開催基金取崩収入	662,635	662,635
減少額合計		662,635
当期正味財産増加額		662,635
前期繰越正味財産額		20,342,891
期末正味財産合計額		19,680,256

貸 借 対 照 表

平成 18 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(固定資産)	(19,680,256)	(正味財産)	(19,680,256)
その他の固定資産	19,680,256	正 味 財 産	19,680,256
普通預金	16,346,651	[当期正味財産増加額]	[662,635]
仮 払 金	3,333,605		
合 計	19,680,256	合 計	19,680,256



お 知 ら せ

V 総 括 表

平成 18 年度収支計算書総括表
平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金	内部取引 消却
I 収入の部						
基本財産運用収入	6,300	6,300				
会 費 収 入	42,940,000	42,940,000				
入 会 金 収 入	487,000	487,000				
事 業 収 入	34,565,612	34,565,612				
諸 収 入	10,401,551	10,239,682	13,512	8,359	139,998	
一般会計繰入金収入	0		0	0	0	
国際会議及び共催会 議開催基金取崩収入	662,635				662,635	
当期収入合計	89,063,098	88,238,594	13,512	8,359	802,633	0
前期繰越収支差額	37,786,948	37,786,948	0	0	0	0
収 入 合 計	126,850,046	126,025,542	13,512	8,359	802,633	0
II 支出の部						
事 業 費	44,899,082	44,096,449			802,633	
管 理 費	44,801,698	44,801,698				
雑 損 失	1,039,400	1,039,400				
特定預金支出	1,032,317	1,032,317				
繰入金支出	0	0				0
予 備 費	0	0				
刊行物発行基金繰入	13,512		13,512			
学術集会開催基金繰入	8,359			8,359		
当期支出合計	91,794,368	90,969,864	13,512	8,359	802,633	0
当期収支差額	2,731,270	2,731,270	0	0	0	0
次期繰越収支差額	35,055,678	35,055,678	0	0	0	0

平成 18 年度正味財産増減計算書総括表
平成 18 年 1 月 1 日から平成 18 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金
I 増加の部					
資 産 増 加 額	1,054,844	1,032,973	13,512	8,359	
増加額合計	1,054,844	1,032,973	13,512	8,359	0
II 減少の部					
資 産 減 少 額	3,393,905	2,731,270			662,635
負債増加額	1,032,973	1,032,973			
減少額合計	4,426,878	3,764,243	0	0	662,635
当期正味財産増加額	3,372,034	2,731,270	13,512	8,359	662,635
前期繰越正味財産額	170,104,908	62,337,348	44,954,523	42,470,146	20,342,891
期末正味財産合計額	166,732,874	59,606,078	44,968,035	42,478,505	19,680,256

平成 18 年度貸借対照表総括表
平成 18 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び 共催会議開催基金
I 資産の部					
流 動 資 産	63,526,347	63,526,347			
固 定 資 産 (うち基本財産)	139,151,930 (21,000,000)	32,025,134 (21,000,000)	44,968,035	42,478,505	19,680,256
資産合計	202,678,277	95,551,481	44,968,035	42,478,505	19,680,256
II 負債の部					
流 動 負 債	28,470,669	28,470,669			
固 定 負 債	7,474,734	7,474,734			
負債合計	35,945,403	35,945,403	0	0	0
III 正味財産の部					
正 味 財 産	166,732,874	59,606,078	44,968,035	42,478,505	19,680,256
負債及び正味財産合計	202,678,277	95,551,481	44,968,035	42,478,505	19,680,256

お 知 ら せ

財 産 目 録
平成 18 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	金 額	
資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 手許有高	436,721	
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	14,453,081	
〃 みずほ銀行本郷支店	12,877,922	
〃 みずほ銀行本郷支店	5,777,088	
〃 りそな銀行本郷支店	7,101,403	
振替貯金 本郷一郵便局	17,473,726	
郵便貯金 本郷一郵便局	1,000,166	
未収会費 会費 平成 18 年度分	1,917,000	
未収金 学会誌投稿料・広告料他	1,461,635	
前払金 平成 19 年 1 月分事務所家賃他	1,010,805	
立替金 欧文誌購読料	16,800	
流動資産合計		63,526,347
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
定期預金 基本財産(三菱東京 UFJ 銀行 自由金利型定期)	21,000,000	
基本財産合計		21,000,000
(2) 有形固定資産		
什器備品 事務用器具備品	834,300	
有形固定資産合計		834,300
(3) その他の固定資産		
退職給与引当預金 三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	7,474,734	
電話加入権 2 本	153,100	
敷金 賃貸借契約敷金	63,000	
保証金 賃貸借契約保証金	2,500,000	
刊行物発行基金 普通預金 みずほ銀行本郷支店	11,896,328	
〃 〃 三井住友銀行小石川支店	13,051,641	
〃 定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	10,000,000	
〃 〃 りそな銀行本郷支店	10,020,066	
学術集会開催基金 普通預金 〃	14,312,013	
〃 〃 三菱 UFJ 信託銀行本店	5,085,453	
〃 定期預金 三菱東京 UFJ 銀行本店	10,081,039	
〃 〃 三菱 UFJ 信託銀行本店	13,000,000	
国際会議および 普通預金 りそな銀行本郷支店	16,346,651	
共催会議開催基金 仮払金 IROS 2005 ~ 2007 分担金他	3,333,605	
その他の固定資産合計		117,317,630
固定資産合計		139,151,930
資産合計		202,678,277
負債の部		
1. 流動負債		
未払金 会計顧問料他	622,100	
前受会費 会費前受分	26,751,790	
預り金 源泉所得税	367,023	
〃 住民税	21,800	
〃 社会保険料	442,756	
〃 欧文誌購読料	265,200	
流動負債合計		28,470,669
2. 固定負債		
退職給与引当金 退職給与分	7,474,734	
固定負債合計		7,474,734
負債合計		35,945,403
正味財産		166,732,874



監 査 報 告 書

社団法人 日本ロボット学会
会 長 内 山 隆 殿

私共監事2名は、この総会資料に記載されている平成18年度の事業報告書ならびに同年度の一般会計、刊行物発行基金、学術集会開催基金、国際会議および共催会議開催基金に関する収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録などにつき監査を実施しました。

監査の結果、いずれも一般に公正妥当と認められる公益法人の会計基準に準拠し、前年度と同一の会計方針を適用しており、また定款の定め

に準拠しているものと認めます。

以上

平成19年3月2日

社団法人 日本ロボット学会
監事 中野 榮 二 ㊟
監事 吉川 恒 夫 ㊟

【第3号議案】

平成19年度 事業計画案

(自平成19年1月1日 至平成19年12月31日)

I 庶 務

1. 第25回総会

会 期：平成19年3月9日(金)

会 場：本郷瀬川ビル

2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

- | | |
|-----------------------|-------------|
| (1) 会誌編集委員会 | (委員長：横井一仁) |
| (2) 欧文誌委員会 | (委員長：佐久間一郎) |
| (3) 事業計画委員会 | (委員長：琴坂信哉) |
| (4) 国際委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (5) 研究協議会 | (委員長：内山 勝) |
| (6) 出版事業委員会 | (委員長：近野 敦) |
| (7) 電子化運営委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (8) アドバイザリーボード | (委員長：佐藤知正) |
| (9) 将来ビジョン策定委員会 | (委員長：佐藤知正) |
| (10) 事務局体制検討委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (11) 第25回学術講演会実行委員会 | (委員長：大久保宏樹) |
| (12) 表彰委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (13) 第21回論文賞選考小委員会 | (委員長：内山 勝) |
| (14) 第22回研究奨励賞選考委員会 | (委員長：佐藤知正) |
| (15) 第23回研究奨励賞選考小委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (16) 第12回実用化技術賞選考小委員会 | (委員長：榊原伸介) |
| (17) 外部表彰選考小委員会 | (委員長：内山 勝) |
| (18) 25周年記念行事検討委員会 | (委員長：佐藤知正) |
| (19) 会員5000名拡大計画委員会 | (委員長：佐藤知正) |

3. 役員・評議員の選出

平成19年度の理事・監事、ならびに評議員を選出する。

4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

5. 学会の基盤強化

会員数の増強を図るため、広報活動を重視し、入会勧誘を引き続き推進する。

6. 電子化運営委員会

- (1) ホームページに関して、情報発信の迅速化および国際化への対応を強化する。
- (2) 学会内イントラを拡充し、学会内の電子化・情報化を推進する。
- (3) 学会運営の効率化のために、学会内のデータベース機能強化を行う。

7. 事務局

学会の将来ビジョンの迅速な実行を進めるとともに、昨年度検討した中長期的な視点に立った事務局体制について今年度整備する。

II 事 業 (定款第5条1号)

1. 学術講演会・シンポジウム等

(1) 第25回学術講演会

期 日：2007年9月13日(木)~15日(土)

会 場：千葉工業大学 津田沼校舎

実行委員長：中野栄二(千葉工業大学)

プログラム委員長：大久保宏樹(千葉工業大学)

2. ロボット工学セミナー

(1) 第39回シンポジウム「ヒューマンロボットインタラクションテクノロジー」

期 日：2007年3月14日

会 場：産業技術総合研究所臨海副都心センター

(2) 第65回講習会「ロボットの作り方2007」

期 日：2007年5月(予定)

会 場：東京工業大学(予定)

(3) 第40回シンポジウム「ロボット・アーキテクチャ」

期 日：2007年6月(予定)

- 会場：東京大学（予定）
- (4) 第41回シンポジウム「ロボットの心理学的評価」
期 日：2007年7月（予定）
会 場：東京工業大学（予定）
- (5) 第42回シンポジウム「スマート・モーション・ロボット」
期 日：2007年10月（予定）
会 場：東京工業大学（予定）
- (6) 第43回シンポジウム「ロボットの安全」
期 日：2007年11月（予定）
会 場：東京工業大学
3. 共催・協賛等
本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。
共催事業：
(1) 第12回ロボティクスシンポジウム
期 日：2007年3月15日(木)、16日(金)
会 場：和泉屋旅館（新潟県長岡市）
実行委員長：木村哲也（長岡技術科学大学）
プログラム委員長：倉林大輔（東京工業大学）
- (2) ロボカップ・ジャパンオープン 2007
期 日：2007年5月3日(木)～5日(土)
開 催 地：インテックス大阪2号館（大阪府住之江区）
実行委員長：高橋友一（名城大学）
- (3) 第19回知能ロボットコンテスト・フェスティバル
期 日：2007年6月23日(土)、24日(日)（予定）
開 催 地：宮城県仙台市
実行委員長：鄭 聖熹（福島大学）
- (4) アールエスコンポーネンツ杯 第7回レスキューロボットコンテスト
期 日：2007年7月8日(日)（予選）
2007年8月11日(土)、12日(日)（本選）
開 催 地：神戸サンボホール
実行委員長：升谷保博（大阪電気通信大学）
4. 出版事業
ロボット学会編集によるライブラリ（講習会テキスト、教科書等）の発行の検討、および最新のロボットテクノロジーを紹介する書籍の出版を検討。
- III 学 会 誌（定款第5条2号）
学会誌第25巻第1号より第8号を1月、3月、4月、5月、7月、8月、10月、11月に刊行し、会員に配布する。各号の特集テーマは以下のものを予定している。
- 第25巻1号 トップに聞く
第25巻2号 マルチスケール操作によるシステム細胞工学
第25巻3号 僕等の21世紀COE（仮）
第25巻4号 環境知能化（仮）
第25巻5号 動作理解のための知的なしくみ（仮）
第25巻6号 第24回学術講演会論文特集号
第25巻7号 ロボット向け電磁アクチュエータの今とこれから（仮）
第25巻8号 ロボットの安全化（仮）
- また、平成19年度は、前年度に引き続き、魅力的な特集号の企画、講座の企画、広告の取得、会誌関連記事の出版化、規程の見直しなどについて取り組む。専門分野のデータベースを用いた査読者決定に関しては、電子化運営委員会が検討を行っている統合データベースの構築に伴い、具体的導入方法を検討する。広告に関しては、会誌広告収入の前年度比10% upを目指す。ロボコンマガジンに連載している研究室紹介の書籍化を行う。
- 中長期目標として、電子化・国際化戦略に基づき、学会誌の12号化や、和文誌と欧文誌の連携の可能性などについて検討する。
- IV 欧 文 誌（定款第5条2号）
1. 欧文誌 Advanced Robotics の発行計画
下記のとおり、2007年度においてはVol. 21の年15回の発行を計画している。なお、No. 1～6に関しては1～3月の期間に各月2号ずつ

合併号として発行し、掲載待ち期間を大幅に短縮する。

- No. 1 & 2 07.1 発行済み 一般論文
No. 3 & 4 07.2 発行予定 一般論文
No. 5 & 6 07.3 発行予定 一般論文
No. 7 07.4 発行予定 一般論文
No. 8 07.5 発行予定 一般論文
No. 9 07.6 発行予定 Robotic Platforms for Research in Neuroscience
No. 10 07.7 発行予定 一般論文
No. 11 07.8 発行予定 一般論文
No. 12 07.9 発行予定 Imitative Robots
No. 13 07.10 発行予定 一般論文
No. 14 07.11 発行予定 IROS 2006
No. 15 07.12 発行予定 一般論文

なお、2008年度（Vol. 22）においては、月刊12回＋季刊4回の年16回発行を予定している。号数増に伴い、一般論文の査読・出版サイクルの大幅な改善と同時に、積極的かつ戦略的な特集号企画を行い、国際的な認知度のさらなる向上を図りたい。

2. 新編集体制

小菅一弘編集長の任期満了に伴い、2007年4月より菅野重樹委員が新編集長に就任する予定である（任期5年）。国際的に活躍している同氏が新編集長となることでARの国際的認知度をさらに高め、ひいては日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位を高めることに貢献していきたい。

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2007年度においては、2006年度に購読管理事務手続の整理を行った結果を反映し、購読者の増加に向けた方策を進めていくことを目標とする。また、個人購読だけでなく出版社のビジネスモデルに大きく影響する機関購読数の増加についての方策を検討する。そのため、出版社Brillとの協議により、購読者や購読機関の増加に応じて、欧文誌事業の収支が改善されるようなビジネスモデルの検討を行う。

4. 国際化に向けての活動

韓国・中国関連学会との協力体制を整備し、これにより東アジア地域における認知度をより一層高めるための方策の検討と努力を行っていく。また、欧文誌の価値を利用してRSJにおける外国人会員の増加などへの協力を行っていく。

引き続き主要な国際会議（ICRA 2007, IROS 2007）にあわせて国際編集委員会を開催し、海外委員による特集号企画など国際的認知度を高める努力を行っていく。

5. Brill社との交渉・契約

2006年度における新規契約締結の結果、毎年6月1日までに次年度の出版計画等を合意することとなったことから、ICRA 2007の機会に出版社と合意書取交しの機会を設け、上述のような、新編集長就任報告、Vol. 21における16号化、新たなビジネスモデルの検討、および将来計画の検討などを行っていく。

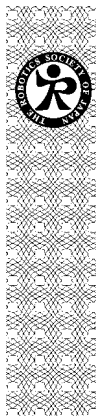
V 企 画

1. 調査・研究専門委員会活動（定款第5条3号）

以下の調査・研究専門委員会による委員会調査活動を行う。

- ・RT学術技術融合調査研究委員会
（委員長：内山 隆、2006.9発足）
 - ・ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会
（委員長：橋本秀紀、2007.1発足）
 - ・手の巧みさ研究専門委員会
（委員長：星野 聖、2007.1発足）
- 年4回公募の定着・広報、研究専門委員会運営協議会による委員会活動の推進策具体化などを通して調査・研究専門委員会活動を活性化させる。

また、RT学術技術融合調査研究委員会については2007年3月の設置期間満了後も継続して活動を実施し、経産省、人工知能学会、日本人間工学会と連携してアカデミックロードマップの検討作業を進める予定である。これらの成果については各学会での平成19年度学術講演会においてディスカッションできるよう互いに協力しあう。



お 知 ら せ

2. 表彰(定款第5条4号)

第25回学術講演会において、論文賞、実用化技術賞および研究奨励賞の表彰を行う。

VI 国 際

1. 国際関連(定款第5条5号)

国際担当理事を中心に関連する理事メンバーが情報を共有し、連携して効率的に業務を進める体制を構築する。18年度は国際協働活動の枠組みがかなり整備された。19年度は実績を拡大する予定である。

19年度活動予定:

- ・ホームページの積極的活用による情報発信
- ・海外ロボット関連学会との連携強化と連携国拡大
- ・主催・共催する国際会議に関する事項の統轄

2. 国際会議共催/協賛(定款第5条1号, 5号)

本会に関連する国際会議を共催(4件)、協賛(3件)する予定。

主な共催会議(予定):

- (a) 第12回人工生命とロボットに関する国際シンポジウム (AROB 12th '07)
期日: 2007年1月23日~1月25日, 会場: 大分・日本
- (b) 2007 IEEE International Conference on Mechatronics and Automation (IEEE ICMA 2007)
期日: 2007年8月5日~8月8日, 会場: ハルビン・中国
- (c) 16th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO MAN 2007)
期日: 2007年8月26日~8月29日, 会場: Jeju Island・韓国
- (d) 2007 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2007)
期日: 2007年10月29日~11月2日, 会場: San Diego・アメリカ

【第4号議案】

平成19年度収支予算書(案)

I 一般会計

平成19年1月1日から平成19年12月31日まで

収入の部 (単位: 円)

科 目	予 算 額
1. 基本財産運用収入	10,000
基本財産利息収入	10,000
2. 会 費 収 入	42,580,000
正 会 員 会 費	30,000,000
学 生 会 員 会 費	4,500,000
賛 助 会 員 会 費	8,080,000
3. 入 会 金 収 入	500,000
正 会 員 入 会 金	130,000
学 生 会 員 入 会 金	370,000
4. 事 業 収 入	33,800,000
会 誌 掲 載 料	16,000,000
欧 文 誌 事 業	1,800,000
学 術 講 演 会	13,800,000
講 習 会	2,200,000
公 開 シ ン ポ ジ ウ ム	0
5. 諸 収 入	9,905,000
利 息 収 入	5,000
広 告 料 収 入	7,000,000
資 料 頒 布 収 入	2,600,000
雑 収 入	300,000
当 期 収 入 合 計 (A)	86,795,000
前 期 繰 越 収 支 差 額	35,055,678
収 入 合 計 (B)	121,850,678

注1. 借入金限度額 0円

お知らせ

支出の部	科 目	予 算 額
1. 事業費		47,030,000
会誌事業費		26,350,000
出版費		(17,000,000)
郵送費		(5,500,000)
編集費		(2,000,000)
電子化運営委員会費		(1,850,000)
欧文誌事業費		3,980,000
編集費		(500,000)
業務委託費		(3,000,000)
出版費		(480,000)
学術講演会開催費		12,500,000
講習会開催費		1,600,000
公開シンポジウム開催費		0
専門委員会費		1,000,000
研究専門委員会費		(700,000)
調査専門委員会費		(300,000)
広告制作費		600,000
表彰費		1,000,000
2. 管理費		40,730,000
総会費		800,000
給料手当		22,000,000
臨時雇賃金		50,000
福利厚生費		3,000,000
旅費交通費		350,000
通信運搬費		600,000
備品消耗品費		600,000
会議費		500,000
印刷製本費		1,000,000
光熱水料費		330,000
賃借料		6,700,000
諸謝金		1,300,000
租税公課		1,100,000
雑費		1,650,000
会費収納費		750,000
3. 雑損失		1,000,000
雑損失		1,000,000
4. 特定預金支出		1,000,000
退職給与引当預金支出		1,000,000
5. 繰入金支出		0
学術集会開催基金繰入金支出		0
刊行物発行基金繰入金支出		0
6. 予備費		1,000,000
予備費		1,000,000
当期支出合計(C)		90,760,000
当期収支差額(A)-(C)		3,965,000
次期繰越収支差額(B)-(C)		31,090,678

注1. 債務負担額 0円

II 刊行物発行基金

平成19年度刊行物発行基金収支予算書(案)

平成19年1月1日から平成19年12月31日まで

収入の部 (単位:円)	
科 目	予 算 額
1. 事業収入	0
2. 利息収入	15,000
3. 雑収入	0
4. 一般会計繰入金収入	0
当期収入合計	15,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	15,000

支出の部 (単位:円)	
科 目	予 算 額
1. 事業費	0
2. 雑損失	0
3. 刊行物発行基金繰入	15,000
当期支出合計	15,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0

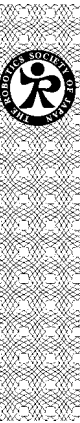
III 学術集会開催基金

平成19年度学術集会開催基金収支予算書(案)

平成19年1月1日から平成19年12月31日まで

収入の部 (単位:円)	
科 目	予 算 額
1. 事業収入	0
2. 利息収入	15,000
3. 雑収入	0
4. 一般会計繰入金収入	0
当期収入合計	15,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	15,000

支出の部 (単位:円)	
科 目	予 算 額
1. 事業費	0
2. 雑損失	0
3. 学術集会開催基金繰入	15,000
当期支出合計	15,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0



お 知 ら せ

IV 国際会議および共催会議開催基金

平成 19 年度国際会議および共催会議開催基金収支予算書(案)

平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 12 月 31 日まで

収入の部 (単位：円)	
科 目	予 算 額
1. 事業収入	0
2. 利息収入	1,000
3. 雑収入	0
4. 一般会計繰入金収入	0
5. 国際会議及び 共催会議開催基金取崩収入	1,019,000
当期収入合計	1,020,000
前期繰越収支差額	0
収入合計	1,020,000
支出の部 (単位：円)	
科 目	予 算 額
1. 事業費	1,020,000
表彰費	500,000
国際会議派遣費	500,000
雑費	20,000
2. 雑損失	0
当期支出合計	1,020,000
当期収支差額	0
次期繰越収支差額	0

V 総 括 表

平成 19 年度収支予算書総括表

平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 12 月 31 日まで

収入の部 (単位：円)					
科 目	合 計	一般会計	刊行物 発行基金	学術集会 開催基金	国際会議及び共催 会議開催基金
収入の部					
基本財産運用収入	10,000	10,000			
会 費 収 入	42,580,000	42,580,000			
入 会 金 収 入	500,000	500,000			
事 業 収 入	33,800,000	33,800,000			
諸 収 入	9,936,000	9,905,000	15,000	15,000	1,000
一般会計繰入金収入	0	0	0	0	0
国際会議及び共催 会議開催基金取崩収入	1,019,000				1,019,000
当期収入合計	87,845,000	86,795,000	15,000	15,000	1,020,000
前期繰越収支差額	35,055,678	35,055,678	0	0	0
収入合計	122,900,678	121,850,678	15,000	15,000	1,020,000
II 支出の部					
事業費	48,050,000	47,030,000			1,020,000
管理費	40,730,000	40,730,000			
雑損失	1,000,000	1,000,000			
特定預金支出	1,000,000	1,000,000			
繰入金支出	0	0			
予備費	1,000,000	1,000,000			
刊行物発行基金繰入	15,000		15,000		
学術集会開催基金繰入	15,000			15,000	
当期支出合計	91,810,000	90,760,000	15,000	15,000	1,020,000
当期収支差額	3,965,000	3,965,000	0	0	0
次期繰越収支差額	31,090,678	31,090,678	0	0	0

【第 5 号議案】

個人会員除名処分の件

日本ロボット学会定款の第 11 条(2)に基づき除名処分を行う。
除名対象者数を以下に示す。

正会員	43 名
学生会員	97 名
合 計	140 名